

えたじま観光ボランティアの会の「解散」等について問う

熊倉 正造 議員

答 再組織の際には積極的に支援する



熊倉 来島する観光客の最前線で頑張っていた「えたじま観光ボランティアの会」が解散したという。市はこのことをどのように認識し、ガイド不在に対処するのか。

熊倉 「ボランティアの会」が再結成されたらどのように位置付け、処遇するのか。

市長 市として積極的に支援します。

熊倉 観光戦略チーム「一歩」における「ボランティアの会」の位置付けと具体的活用策は

市長 おもてなしの担い手などを検討する分科会において、「観光ボランティアの会」に所属していた皆さまからご意見をいただきます。

熊倉 江田島市と江田島市観光協会との関係は

産業部長 補助金交付対象団体で補助金を年額約2300万円交付しています。

熊倉 交流観光課の分掌事務に「観光事業の指導」があるが、観光協会も指導しているのか。

産業部長 観光協会の職員に市に来てもらったがり、市の職員が観光協会に出向いたりして相互に情報交換等を行っています。

熊倉 協会と観光ボランティアの会は、相互依存・密接不可分の関係である。このような関係であるべき一方が解散した状況をどう考えるか。

産業部長 両者が良い関係になってもらいたいと思います。

熊倉 観光協会においてここ1〜2年新たな観光客誘致のための施策が全くない、と言われている



▲観光ボランティアの会

熊倉 再結成した観光ボランティアの会と観光協会、観光関連団体が総観光客数100万人の目標達成を目指し、一致協力して頑張っていくことを祈念する。

産業部長 新しく観光ボランティアの会が立ち上がり、または再結成されたら再発防止のため考えます。

産業部長 「一歩」の中で検討します。

熊倉 観光ボランティアの会が解散という今回のような事態が二度と起きないよう両者が政策協定を結ぶことを提案する。



答 復旧復興及び被災者支援に全力を挙げて取り組む

復旧計画の基本的な考え方は

岡野 7月に発生した豪雨災害は市内各地に大きな爪痕を残した。原因は過去に例を見ないような豪雨による土石流の発生や河川の氾濫によるものである。復旧に当たっては十分な検証に基づき、同レベルの豪雨でも耐えられるような復旧工事が必要と考えるがいかがか

市長 被災した原因やメカニズムを解明し原因の除去を図った工法を採用し、再度災害を防止します。復旧復興計画につきましては、県と市が連携しながら各種災害関連事業を積極的に実施し、災害に強いインフラの再構築を図ります。

市長 被災した原因やメカニズムを解明し原因の除去を図った工法を採用し、再度災害を防止します。復旧復興計画につきましては、県と市が連携しながら各種災害関連事業を積極的に実施し、災害に強いインフラの再構築を図ります。

岡野 被災した原因やメカニズムの解明はどのように行うのか。

土木建築部長 専門業者により現地の被災状況を詳しく調査・考察し、原因を特定します。

岡野 今回の豪雨災害を教訓に再度災害を防止するため、原形復旧のみではなく「改良復旧」という視点に立った復旧計画とされたい。

被災者支援策について

岡野 災害救助法の適用や激甚災害の指定などで被災者に対する支援ができるようになったが、適用基準が厳しかったため対象にならない被災者もいる。そのような方への支援は

岡野 各種支援制度には申請期限があると思うが、現在は復旧工事などで施工業者が足りない。期限内での申請が困難な場合の対応は。

福祉保健部長 被災者への支援するための制度ですから、期間延長も視野に

入れながら事業を推進してまいります。
岡野 義援金の配分は、どのように考えているのか。

福祉保健部長 現在1次配分を行っており、床下浸水なども対象にしています。2次配分以降については県の配分を受けてからになりますが、本市の被災状況を勘案しながら委員会でも協議していきたいと考えています。

岡野 今後の配分には、被災対象者の拡充も含めて検討され、被災された方々への助けとなるよう配慮いただきたい。

豪雨災害後の復旧計画・支援策は

岡野 数正 議員

給水活動の検証は

胡子 雅信 議員

答 給水拠点の変更を検討

更なるよう検討します。

胡子 自己水源が乏しいなか、災害時の井戸水マップを作成しては。

市民生活部長 今後研究したいと思います。

胡子 災害および復旧支援の情報発信は。

市長 避難所開設や避難勧告は防災行政無線や防災メール、防災ツイッターで発信しました。災害の全体概要や支援制度及び手続きは市HPやフェイスブックほか市広報紙やチラシを活用しました。情報の伝達不足や分かりにくさを起因とする大きな混乱は発生しませんでした。災害情報はより速報性・より正確性

市長 避難所開設や避難勧告は防災行政無線や防災メール、防災ツイッターで発信しました。災害の全体概要や支援制度及び手続きは市HPやフェイスブックほか市広報紙やチラシを活用しました。情報の伝達不足や分かりにくさを起因とする大きな混乱は発生しませんでした。災害情報はより速報性・より正確性

の高い情報発信の手法を検討します。

大柿高校への新たな支援策の方向性について

胡子 市及び市教委の新たな支援策として①高校の魅力向上、②高校の魅力PR、③生徒の募集活動の3点を強化する方向性を示したが、具体策は。

市長 大柿高校の存廃は教育環境の整備や定住促進に大きな影響を及ぼす。高校と連携をはかりつつ、必要な支援策を積極的に取り入れ、存続に向けて全力で取り組みます。

教育長 魅力化コーディネーターを配置し、魅力アップ向上策、中高の連携促進、市内外の関係機



▲大柿市民センター給水所